

地域のこれからを考える会

～認知症になっても住みやすいまちづくり～

「子の代、孫の代まで安心して過ごせる町、住みよい昭和町」で暮らすためには?と考えたとき、

①介護が必要な高齢の方が増えても

- ・介護の担い手が足りない
- ・財政が厳しい

など、思うように介護サービスを受けられない?!

②認知症の方が増えても、地域の皆

さんの理解がないとご本人が望む昭和町での暮らしが続けられなくなる?!

ではどうしたらよいか、モデル3地区の代表の皆さんと一緒に考えてみました。

現状について話し合い、地区ごとに意見交換してみました。



行けが必ず誰かいる場
子とも気軽に集まれる場
があるといい。

平成27年度より、
モデル3地区でスタート!
まずは合同で
話し合いました☆

上から言われる組織ではなく、
自分たちで仕組みを作りたい。

高齢者は出たいけれども
足の確保が難しい。



合同での話し合いの後、
各地区に持ち帰って、再度
話し合いを重ねています♪



3つの地区からの声

上河東二区

ボランティア活動が熱心
自然な助け合いができて
いる



●気になること

- 2025年に向けて介護を必要とする人が増えるのになり手が少ない
- 以前は愛育会などの活動も活発だったが、プライバシーの問題もあり、十分な活動がしづらくなっている

●これからに向けて

- 10年先、20年先を考え、自分たちのできそうなことをもっと考えよう
- ボランティアも高齢になっているので若い力もほしい
- お祭りなど地区の色々な活動を知ってもらう機会を作りたい



3つの地区からの声

西条二区

●気になること

大きい区だけに
向こう三軒両隣の
防災体制取り組み中



- 特にアパート・マンションの方とのつながりが少ない
- サロンを開いても、こもりがちな人など気になる人の参加が少ない
- 個人情報の問題もあるが、認知症を隠して抱え込んでいる人もいようだ



●できそうなこと

- 『年寄り110番の家』の看板を作って受け入れる体制づくりや声かけ
- 『向こう三軒両隣(組)』くらいの単位で話し合う
- 空き店舗などを使って「高齢者の集えるカフェ」をつくったらどうか?
- 組単位で「認知症サポーター養成講座」を受けて認知症について知る



3つの地区からの声

清水新居

●気になること

公民館活動が活発!!



- アパートが多いが、高齢で独り暮らしの人はサロンなどに参加してこない
- 誰に声かけや見守りが必要なのか情報が少ない
- 昔からいる人、新しく来た人との交流の機会が減っている



●できそうなこと、町へのお願い

- 日頃から認知症の方を気にかけて、気長に声かけ
- 認知症などの垣根を越えて、誰でも参加できるゲームや体操をする場を作る
- 認知症サポーター養成講座を清水新居で開いてほしい
- 児童センターを活用して子どもとお年寄りの集える場づくり



H28.9.10 新区長を中心に再度話し合い

H29.2.21 清水新居で
認知症サポーター養成講座開催!!